

第 6 編 報告書の縦覧等について

第 1 章 報告書の縦覧

1. 縦覧期間

報告16年9月17日から平成16年10月16日

2. 縦覧場所

県庁 県民サービスセンター

県庁 都市道路整備局

都市道路整備局ホームページ

第 2 章 住民等意見書について

1. 縦覧による意見提出期間

平成16年9月17日から平成16年10月30日

2. 提出の有無

なし

3. アドバイザー会議時の質問(平成16年9月1日開催)

報告書に関する質問 8問

それ以外の質問等 9問

第3章 意見概要・見解書

1. 報告書に関する質問

意見概要	見 解 書
<p>① 2003年には見られなかった砂州が河口干潟下流にできた。どうしてできたのか、説明してほしい。</p> <p>また、この変化を「通常の季節的な変動に含まれるものと考えられる。」という理由は何か。</p>	<p>① 2003年まではあまり大きな洪水（台風等）がなかったために、河口前面の海域に土砂が堆積し、この土砂が波の作用により河道内に輸送され、河口干潟北側に堆積することにより、浅瀬を形成しました。</p> <p>また、冬場の吉野川では主に北西季節風が吹き、この季節風により河道内風波が発達します。この波は上流から下流方向に向かうため、河口干潟の北西部を浸食し、浸食された土砂が河口干潟下流に輸送され、堆積することが毎年観測されています。</p> <p>ご質問の2004年春に河口干潟下流にできた砂州は、河口前面に堆積した土砂の波による河道内堆積と冬季の季節風により発生した波の浸食堆積作用を受けた現象と言えます。</p>
<p>② 工事前、工事中、現在の水の流れを図で説明してほしい。</p> <p>また、地形、水質、底質、底生動物、植物、魚類との関係も説明してほしい。</p>	<p>② 吉野川の流れは、川本来の流れ（河川流）、潮の干満による流れ（潮汐流）、海から進入してくる波浪に起因する流れ（波浪流）、さらに塩水と淡水が混じり合うために生じる（密度流）の4種類の流れが複雑に混じり合い、常時大きく変化しながら流れており、詳細には解明できていないものです。</p> <p>例えば、徳島大学で河口から1.8km地点で長期にわたって係留型の流速計、水温塩分計を用いて想定した結果でも、表層と底層では全く違った方向に流れていることがしばしば観測されています。</p> <p>しかし、この複雑な流れを概観的に表すには、種々の方法があり、当事業では、数値シミュレーションにより洪水流、潮汐流の工事前と工事後の変化について検討しています。ご質問の工事前の流れの状態はこの数値シミュレーションによりお示しできます。</p> <p>しかしながら、工事中あるいは現在の水の流れの調査、解析はしておりません。これは、流れの変化は工事中という一時的な時点をとらえるものではなく、橋脚完成後のある程度長期的な調査を行う必要があると判断したからです。</p> <p>また、水の流れと地形、水質、生物との関係については、本モニタリング調査の中でも重要な課題であり、今後も検討解析を進めてまいります。</p>

意見概要	見 解 書
<p>③ 潮流観測点が2箇所なのみの理由は。 また、事前で1回なのはどうか。潮流調査はなぜ工事中にはしないのか。橋脚完成後に行う予定だが、どうか。</p>	<p>③ 潮流調査は橋梁建設による流れへの影響の程度を把握するために行うものです。 橋梁建設付近にはほぼ中央に浅瀬があり、この浅瀬の両側に吉野川の主となる滞筋が存在します。 St.1は河口から1.8km地点で左岸寄り滞筋の代表点です。ここでは夏から冬にかけて工事前の2カ年にわたり徳島大学が潮流観測を実施しています。そのため、工事後との比較が容易であると選定しました。 また、St.2は右岸寄り（干潟北側）滞筋の代表点であり、この上流にP3～P6の橋脚が建設されるため、橋脚による潮流への影響が最も顕著に現れると考えられます。 そうしたことを考慮し、かつ、最小の調査で効果的に影響が把握できる地点として上記の2箇所を選定したものです。 また、工事中に調査を行わないのは、流れの状態が上流からの出水や季節風の程度によっても変化するため、ある程度長期的な調査をしないと影響を把握することは困難であると判断したものです。</p>
<p>④ 底質調査地点が3箇所なのみの理由は。</p>	<p>④ 底質調査は工事による濁りなどの影響を調べるものであり、架橋付近の代表的な地形である一般部の滞筋と比較的浅い箇所、干潟部の3箇所を選定したものです。</p>
<p>⑤ ルイスハンミョウの調査ルートに住吉干潟が入っていないのはどうか。 また、シオマネキの調査結果では日常的に見られる地点で確認されていない。十分な調査は難しいと思うが、その点を補うどのような努力や配慮が為されているのか。</p>	<p>⑤ ルイスハンミョウについては住吉干潟も調査していますが、同付近で確認できませんでした。また、河口干潟でも確認はしていますが、確認数が少なく、8月に襲来した台風の影響も考えられます。 調査の信頼度を上げるために調査箇所、回数を増やすのも方法ですが、費用の問題もあり、困難です。 しかし、平成16年度環境モニタリング調査では、できる範囲で調査回数や調査人数を増やすなど種々工夫することで対応したいと考えています。</p>
<p>⑥ 橋脚工事で出てきた土砂、シルトは、どのように処理したのか。P2とP14を例にして説明してほしい。</p>	<p>⑥ P14は土砂掘削をしない工法を採用しており、土砂の発生はありません。P2については、鋼管内掘削など今後発生しますが、その処理の方法等について、現在、河川管理者と協議を行っているところです。</p>

意見概要	見 解 書
⑦ 5月以降、住吉干潟北先、河口干潟最下流部で泥っぽくなっているとの話を聞いたが、工事前、工事中、汚濁防止膜撤去後の水質、底質の変化を教えてください。	⑦ 平成16年度環境モニタリング調査報告書で考察することになっています。
⑧ イセウキヤガラ、ウラギクの生育条件を教えてください。	⑧ イセウキヤガラはカヤツリグサ科の多年草で7～10月に褐色の花をつけます。河口の潮の干満のある砂、泥の場所を好んで生息します。 ウラギクはキク科の多年草で8～11月に青紫から紅紫色の花をつけます。汽水域の砂礫など絶えず塩水をかぶる場所を好んで生息します。

2. 報告書以外に関する質問

アドバイザー会議の運営等に関する質問等が9問ありましたが、報告書に関する質問ではありませんので、回答は控えさせていただきます。

ただし、質問された方々にはそれぞれ回答しています。